

21	単元名	11 課 立ちます・座ります・ご飯を食べます	1 / 2
----	-----	------------------------	-------

1 単元目標 基本の動詞を使って話すことができる

2 単元の指導内容 (本時 1 / 2)

課	単元	指導内容	主な表現と語彙 (例)	字
	21	<ul style="list-style-type: none"> 身近な動詞 拗音・拗長音の表記 	「わたしは、○ます。」「わたしは、○ません。」「はしります・あるきます・たちます・すわります・ねます・おきます」	拗音 拗長音
11	22	<ul style="list-style-type: none"> 「を」を使った目的語を伴う動詞の使い方 片仮名の使い方 	「わたしは、○を○ます。」 「わたしは、○を○ません。」 「てをあらいます。」「ごはんをたべます。」 「みずをのみます。」「ほんをよみます。」	へ・リ・カ・キ・コ・モ・ヤ・セ

3 本時の指導目標

- (1) 身近な動作の言葉を理解し、使えるようにする。
- (2) 拗音・拗長音の表記を理解し、使えるようにする。

4 指導のポイント

- (1) 「歩きます・歩きません」のような敬体の動詞を使って、動作を表現させる。
- (2) 「おちゃ」「きょうしつ」などの拗音・拗長音の発音や表記に慣れるように練習させる。

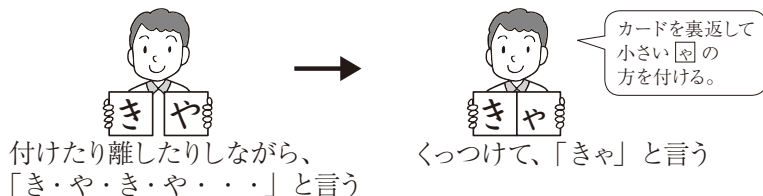
5 アクティビティ (活動) の方法及び留意点

【留意点】

- 日本語の動詞は「歩きます・走ります」のような「ます」の付いた「敬体」と「歩く・走る」のような「常体」がある。敬体の動詞の語尾「ます」を「ません」に変えると「歩きません・走りません」のように否定形になる。また、「ますか」を付けると「歩きますか・走りますか」のように疑問形になる。「常体」は、五段活用などのように活用が複雑で否定形や過去形を作るときの児童・生徒の負担が大きい。そのため、来日間もない児童・生徒には、「敬体」を教える。いずれ「常体」も教えるが、教師は一度に「敬体」と「常体」を教えると児童・生徒の理解の混乱を招くことを認識して指導に当たる。
- 拗音とは、音節の一種で「曲がった音」を意味し、直音の対語である。い列の音に小さく書く「や・ゆ・よ」が付く音で、手でたたくと一拍分に当たる。例えば、「おちゃ」は2拍、「じてんしゃ」は、4拍である。拍の感覚を体得できると「きょうしつ」(4拍)や「ぎゅうにゅう」(4拍)のような拗長音の表記で「う」を正しく書けるようになる。

い段の音と拗長音カード

「き」のカードと、裏表に大きい「よ」と小さい「よ」を書いたカードを用意する。



付けたり離したりしながら、「き・や・き・や・・・」と言う

くっつけて、「きや」と言う

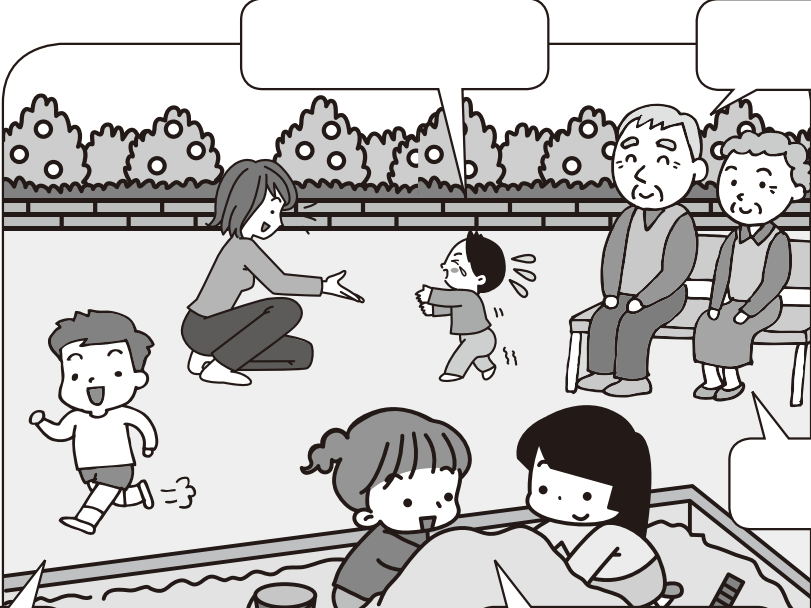
※拡大して半分に折り、同サイズのい段の平仮名と組み合わせる。

6 本時の展開

	学習内容	指導内容等	留意点・教材
挨拶	始めの挨拶 日付・曜日・天気 前時の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・始めの挨拶をする。 ・日付・曜日・天気を答えさせ、板書する。 ・前時の復習を行う。 	
活動1	文型① 「あるきます。」 「はしります。」	<ul style="list-style-type: none"> ・教材・ワークシートの絵を使い、「歩きます・走ります・立ちます」の動作を言葉で表現させる。 ・「歩きます・走ります・立ちます」など「〇〇ます」と板書し、言いながら実際に動く。 ・教師が「歩きます・走ります・立ちます」などの指示をし、児童・生徒が指示に従って動く。（慣れたら交替する。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材・ワークシートの絵を活用する。 ・低学年には、指示ゲームのように動作と共に表現や文型を覚えさせる方法が効果的である。
活動2	文型② 「ありません。」 「はしりません。」	<ul style="list-style-type: none"> ・教材・ワークシートの絵を掲示してその前で腕を交差しバツ印を作って、「歩きません・走りません・立ちません」の動作を言葉で表現する。 ・「〇〇ません」と板書し、言いながら実際に動く。 ・教師が「歩きます・歩きません」「走ります・走りません」「立ちます・立ちません」などと言葉で指示をし、児童・生徒が指示に従って動く。（慣れたら交替する。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材・ワークシートの絵を活用する。 ・【活動1】と同様、低学年の児童・生徒には動作を体験させながら【活動2】の文型を教えると効果的である。
活動3	文字 拗音・拗長音	<ul style="list-style-type: none"> ・「きゃ」「きゅ」・・・「きょう」などで練習させる。 ・拗長音カードやジェスチャーなどで拗音・拗長音の発音を体感しながら練習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拗音・拗長音カードを活用する。 【宿題】ノート練習
挨拶	終わりの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・終わりの挨拶をする。 	

7 教材・ワークシート

 <p>はしります</p>	 <p>あるきます</p>	 <p>たちます</p>	 <p>すわります</p>
 <p>ねます</p>	 <p>おきます</p>	 <p>あそびます</p>	 <p>やすみます</p>
 <p>わらいます</p>	 <p>おこります</p>	 <p>なきます</p>	 <p>うたいます</p>



はしります

あそびます



・あなたは、はしりますか。

・はい、はしります。

・いいえ、はしりません。



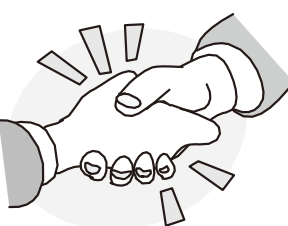


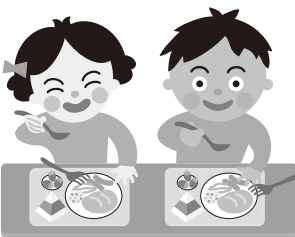




・あなたは、なきますか。



・あなたは、たちますか。

・ ねじれるおとのことば (きゃ・きゅ・きょ・きょう・きゅう・しゅう など)

 <p>おちゃ</p>	 <p>じてんしゃ</p>	 <p>あくしゅ</p>	 <p>きんぎょ</p>
 <p>きょうしつ</p>	 <p>きゅうしょく</p>	 <p>ぎゅうにゅう</p>	 <p>べんきょう</p>